

【正の数・負の数で量を表すこと】(教科書 P.17 から P.18 まで)

☆反対の性質をもつと考えられる量は正の数・負の数を使って表すことができる

(例) ① 海面の高さを基準としたとき、山の高さ (+) ⇔ \_\_\_\_\_ (-)  
 富士山の高さを +3776m とすると、伊豆小笠原海溝は -9780m と表される。

② 収入 (+) ⇔ \_\_\_\_\_ (-)  
 5000 円の収入を +500 円とすると、4000 円の支出は -4000 円と表される。

③ ある地点を基準としたとき、東の方向 (+) ⇔ \_\_\_\_\_ (-)  
 ある地点から東に 2km の地点を +2km とすると、  
 ある地点から西に 3.5km の地点を -3.5km と表される。

**P.17 問 1** を解く 500 円の損失 \_\_\_\_\_

☆基準を決めて、それからの増減や過不足を、正の数・負の数を使って表すことができる

(例) **10 得点することを基準**としたとき、  
 それとの違いは、16 得点 ⇒ +6 得点 , 7 得点 ⇒ -3 得点

**P.18 問 2**  
 を解く

曜 日	月	火	水	木	金
利用者数 (人)	210	195	203	193	200
目標(200 人)との違い	+10	-5			

☆反対の性質をもつ量は、負の数を使うと、一方の言葉だけで表すことができる。

(例) **「多い」⇔「少ない」** [5 個少ない] を [-5 個多い] と言い換えることができる

**P.18 問 3** を解く

- (1) 4 個少ない [多い]
- (2) 6cm 短い [長い]
- (3) 3kg 軽い [重い]
- (4) 10 円足りない [余る]